

2018年10月3日
東日本旅客鉄道株式会社

「事故の歴史展示館」の拡充について

- JR東日本では、会社発足以降、安全を経営のトッププライオリティと位置づけ、安全の取り組みを推進してきました。
- このたび、JR東日本グループの社員が過去の事故を忘れることなく、より深く過去の事故の教訓を学ぶことを目指して「事故の歴史展示館」を拡充します。
- JR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」に示した“社員一人ひとりの安全行動と安全マネジメントの進化”を図り、「究極の安全」に向けて、さらなる安全の取り組みを推進してまいります。

1. 事故の歴史展示館について

2002年11月にJR東日本総合研修センター内に、過去の事故の概要や対策を当時の新聞記事と併せてパネルで展示した「事故の歴史展示館」を開設し、“事故から学ぶ”取り組みを続けてきました。

このたび、研修センター内に建屋を新たに設け、教育内容をさらに充実させ、より深く過去の事故の教訓を学んでいくこととしました。具体的には、デジタルサイネージを活用して事故の概要や対策をより理解する、事故当時の実記録の展示や事故の対応などに携わった方々の証言動画等により事故をより肌で感じる、事故の実物車両を展示して社員一人ひとりが事故に至った要因を様々な面から考察する、といったことを進めてまいります。



拡充した事故の歴史展示館の外観

事故の歴史展示館

設置場所

JR東日本総合研修センター内
(福島県白河市)

開設日

2018年10月5日(金)

拡充の主な内容の比較

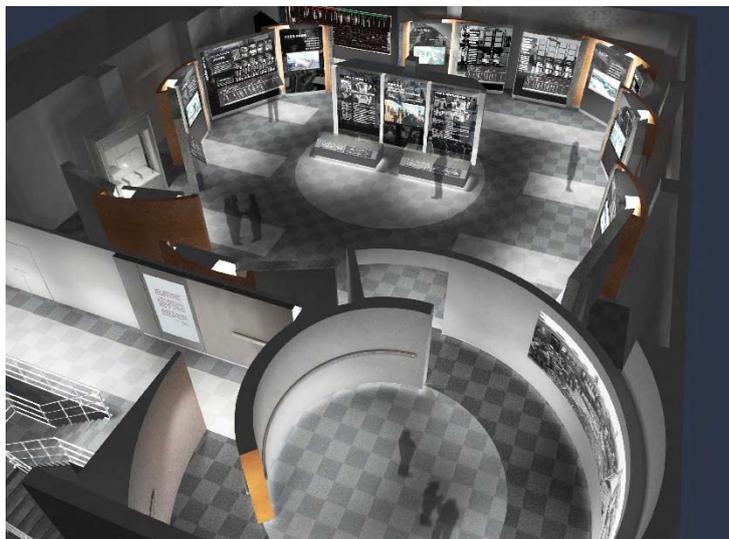
これまでの展示および教育内容	今後の展示及び教育内容
<p>◇「事故の歴史展示館（本館）」 （約130㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> パネルを中心とした展示 （事故の概要、対策、当時の新聞記事、一部CGによる再現映像） 	<p>◇「事故の歴史展示館（本館）」 （約485㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> パネルとデジタルサイネージを組み合わせた展示 （左記内容を充実するとともに、安全を確保する仕組み、事故の対応などに携わった方々の証言、等を追加） 事故当時の実記録等を展示 <p>◇「事故の歴史展示館（考察館）」 （約810㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> 京浜東北線川崎駅構内で発生した事故の実物車両等を用いて再現展示
<p>◇「事故の歴史展示館（車両保存館）」 （約980㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故車両・被災した実物車両等を展示 	<p>◇「事故の歴史展示館（車両保存館）」 （約980㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故車両・被災した実物車両等を展示

(1) 事故の歴史展示館（本館）
～過去の事故から学ぶ～

映像やスライドなどで事故概要や教訓を学んだり、過去に発生した事故当時の資料等を閲覧したりし、より深く事故の教訓を学ぶことができるようにしています。

拡充する「事故の歴史展示館」では、大きく取り上げる34件の事故と、それに関連する約80件の事故を取り上げ、事故の要因や対策の成り立ちをより理解できるようにしています。

また、事故の対応などに携わった方々から、当時の経験とメッセージを聴くことで、事故防止に対する思いや事故の対策がより腑に落ちるようにしています。



展示イメージ（全体）



展示イメージ



事故当時の資料等

（写真：1951年桜木町駅構内列車火災事故時の記録）

(2) 事故の歴史展示館（考察館）

～列車脱線事故を再現し、考察する～

2014年2月に京浜東北線川崎駅構内で脱線した車両と衝撃した工事用車両の実物を展示し、事故の状況を再現しています。

実物車両の内部も見ることができるようにし、社員一人ひとりが事故の恐ろしさを肌で感じるとともに、事故を自分事としてとらえ、事故に至った要因を様々な面から考察することとしています。



京浜東北線川崎駅構内列車脱線事故の再現

2 活用方法

JR東日本の社員及びグループ会社や関係会社の社員等に対して、「安全システムの歴史や作業ルールが決まった経緯」「事故防止の考え方」「お客さま等の命を守ることの重要性」等を、座学と合わせて教育してまいります。

【参考】

事故の歴史展示館の経緯

2002年11月に、過去の事故から学ぶことを目的に、事故の概要や対策を当時の新聞記事と併せてパネルで展示した「事故の歴史展示館」を開設しました。

その後、2014年4月に、中越地震で脱線した新幹線車両（2004年10月）、羽越本線で脱線した車両（2005年12月）、東日本大震災で津波に襲われた車両（2011年3月）を展示した「事故の歴史展示館（車両保存館）」を増設し、事故の教訓を学び、事故の恐ろしさを胸に刻み、具体的な行動につなげる取組みを推進してきました。

今後、2018年10月に拡充する「事故の歴史展示館」を加え、過去の事故を忘れることなく大切に引継ぐとともに、鉄道の安全の取組みをさらに推進してまいります。



2002年に開設した事故の歴史展示館



2014年に開設した事故の歴史展示館（車両保存館）

京浜東北線川崎駅構内で発生した列車脱線事故

2014年2月23日、川崎駅構内で行っていた線路上の工事において、通常は列車が来ないことを確認の上、線路を閉鎖する措置（線路閉鎖）を講じてから工事用車両を線路上に載せるところ、線路を閉鎖する措置を講じる前に工事用車両を線路上に載せた。そこに、京浜東北線の回送列車が接近し、工事用車両と衝突した。同列車は、先頭車両（10号車）と2両目（9号車）が脱線、先頭車両は進行左側に横転、2両目は進行左側に傾いた状態となり、乗務員2名が負傷した。なお、同列車は回送列車であったことから、お客さまは乗車していなかった。

